

活動報告

「私たちが社会に出るには何が要るの？」シンポジウム
—女性の、女性による、女性のための福祉用具活用人生術—

竹村 美紀子

1. はじめに

2018年5月26日(土)大阪府社会福祉会館にて、障害を持ちながらも強く生きてこられている3人の女性の、それぞれの生き方や考え方のお話によるシンポジウムが開催されました。女性障害者特有の身体的な、あるいは社会的な生きにくさや悩みなどについて、各々の意見を率直に強く述べられていた印象を受けました。

2. 講演者の女性3人について

村田恵子氏 (DPI 女性障害者ネットワーク)

古井正代氏 (脳性まひ者の生活と健康を考える会)

田上香氏 (ユニバーサルサービスアカデミー)

3. 講演

実は今回、このような活動報告の執筆依頼を受けるとは全く思ってもいなかったため、特にメモを取っていたわけでも、それを踏まえてお話を聞いていたわけでもありませんでした。しかし、このシンポジウムでの三人の方々のお話は大変興味深く、私自身、お話を聞いていた中で感じることもとても多かったです。

ただ、そのような理由もあり、今回の報告では、私自身が個人的に強く印象に残ったお話を中心に、自分自身の意見などと共に報告します。

まずは村田さんのお話でした。村田さんは、障害者であることに加え、女性であるという事が2重の生き辛さを作っていると話されていました。正直、私はそう言ったことを感じたことはほぼないので、へえー、そうなんだ、と思って少し客観的に聞いていたところもありました。特に印象的だった内容が、特に医療や介護の現場では障害者を男女関係なく“障害者”と一括りの枠に入れている、男性職員が女性障害者のケアを仕事だから関係ないと言って行われることもある現実に憤りを感じると思った主旨のことでした。で

も例えば女性看護師が男性患者のケアをするなど、逆の場合は割と普通ですよ？ドクターの場合も、例えば男性ドクターでも、彼は男性ではあるけどドクターだから、といった目で私も見ます。だからと言って、じゃあ男性看護師に必要な全てのケアを何の憤りもなく頼めるかと言われると、そこはかなり躊躇するな、など考えながら聞いていました。でもやっていただけなのであれば、ある程度までなら私は『ありがとうございます!』になるかな。

続いて古井さんのお話。彼女のお話を聞き始め、まず最初に感じたことは、『波乱万丈な人生を天真爛漫に強く生きてこられた方なのだな』でした。多岐に渡る障害者運動、子育て、ご自身の親の介護などをしてこられたという彼女は、パワフルさが全身から溢れ出ていました。質疑応答の際、ある女性障害者の方が、「ヘルパーさんに気を遣いすぎてしまい、言いたいことが言えない、ストレスになる」と相談をされたのですが、それに対し、即一喝「なんで我慢せなあかんのや！そんなもん言いたいこと言ええんや！主役は自分やで！」と。その意見に対しては、私は正直、『ん？その意見も一理あるけど、でもなんか私の考え方とは違うかな』と思ったのですが、でも、やはりパワフルな方でした！

そして最後は田上さんのお話。田上さんがご自身も障害者であるご主人と試行錯誤しながら様々な工夫をされ、建てられたご自宅は、私も実際に訪問、見学させていただいたこともあります。素晴らしくよく作られています。お二人の障害、進行した時の可能性、また訪問客にも快適に過ごしてもらえようといった工夫が随所に取り入れられています。ただ、現実的にここまで完璧な住居を確保できる人は一部の人達になるのかなとも毎回お話聞いて感じるところです。

質疑応答の際に出たお話で、ある時、道で車椅

子から落ちてしまった。その時、自分は大丈夫だから構わないでほしいと伝えたにも関わらず、駆け寄ってきた若い男性に抱えられ嫌な思いをした、と話されていました。

気持ち、多少は分からなくもないです。人の行きかう路上で。私も気恥しく感じるでしょう。でも、私だったら、咄嗟に、あれこれ考える余地もなく『あ！助けなきゃ！』と飛んできてくれたなら、その気持ち、その行動、めちゃくちゃ嬉しいです。

少し話はズレますが、先日、ある方が「自分は困っている人がいたら力になりたい、誰かの助けになれた時は本当に嬉しい。多くの方はそうだが、手を差し伸べる勇気がない人がたくさんいる。ある時、困っているように見えた障害者に声をかけたら断られた。そして同じようなことが3回続き、心が折れた。それからは声をかける勇気がない」と話されていました。そして、私たち障害者側にも健常者の不器用でも力になりたいんだという気持ちを受け入れてあげよう、くらいの気持ちを持ってくれたら嬉しいのだ、とおっしゃっていました。ああ、なるほどなあ、と思いました。

4. まとめ

皆が皆、自分と同じ考え方ではないのだという事を改めてよく知れて、とても良い勉強になりました！今回、なんだか批判的な意見も述べていたように感じられたかと思いますが、どの考え方が正解不正解ではなく、障害者の数だけそれぞれの意見や考え方があり、そして私が忘れてはならないことは、こういった方達の強い思いと勇気ある行動のお陰で、より住みやすい社会へと変わっていくのだと感じました。参加させていただいて、本当に良かったです！



村田さんのご講演



田上さんのご講演



会場の様子